

琉球大学学術リポジトリ

《社会科》深い学びを実現するための思考力の育成：
社会的な見方・考え方の深め合いを通して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属中学校 公開日: 2017-09-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 玉城, 健一, 中村, 謙太, 里井, 洋一, 白尾, 裕志 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/37186

深い学びを実現するための思考力の育成

—社会的な見方・考え方の深め合いを通して—

玉城健一* 中村謙太* 里井洋一** 白尾裕志**

*琉球大学教育学部附属中学校 **琉球大学教育学部

I 主題設定の理由

1 社会的背景

現代社会はグローバル化が進展している反面、格差が拡大し、資源の争奪戦や領土問題、宗教問題などから偏狭なナショナリズムも台頭している。こうした問題を解決しながら持続可能な社会をつくるためには、誰かが答えを出してくれるのを待つのではなく、市民一人一人が考えや知識、知恵を持ち寄り主体的に答えを作り出すことが求められる。⁽¹⁾ また第4期中央教育審議会の答申では社会科の改善事項として「我が国や世界の地理や歴史、法や政治、経済等に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を習得し、社会的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明する学習などを通して社会的な見方や考え方を養う」と示し「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」として社会科を示した。

2 これまでの研究

本校は、昨年度まで知識構成型ジグソー法を基盤とした協調学習に取り組んできた。⁽²⁾ 社会科としては発展課題を設定することで、課題に対しての自らの考えを吟味したり、再構成している場面から思考が深まっている様子が見られた。また、社会科が苦手な生徒も意欲的に対話し、自分の意見を認めてもらう様子も見られた。主体的で活発な対話が見られた反面、主に次のような課題があげられた。

- これまでの研究の蓄積を生かし、単元を通して考える課題を作成し、知識構成型ジグソー法を取り込んでいく必要がある。
- 社会的な見方・考え方を深めるためには、生徒がいかに思考できたかに関わってくる。生徒の思考を深めさせることを念頭に置き実践を行なう。

これらのことを踏まえ、今年度から本校が取り組んでいる「思考力」を社会科では深い学びを実現するための思考力と捉え、「課題解決の場面で多面的、多角的に考察し、社会的な見方・考え方を深め合うことで、よりよい解決策を探し続ける力」とし、その思考力をはぐくむために社会的な見方・考え方を深め合うことに焦点をあてて研究を進めていくことにした。

II 研究の目的

本研究は、社会的な見方・考え方を深め合うことを通して、社会における深い学びを実現するための思考力を育成することを目的とする。

III 目指す生徒像

本研究では「社会的な見方・考え方の深め合いを通して、課題に対してよりよい解決策を探し続ける生徒」を目指し研究を進める。具体的な生徒像を以下に示す。

- 学習課題について、多面的・多角的に考察できる生徒。
- 学習したことを様々な立場や意見を踏まえて、選択、判断できる生徒。
- 自分の考えを論理的に説明できる生徒。
- 他者の主張を吟味し、自分の考えを再構成しながら議論できる生徒。

IV 研究内容

1 社会的な見方・考え方

社会的な見方・考え方とは、課題解決的な学習に

において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」である。^③それを用いて社会の在り方や社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力や社会に見られる課題を把握して、それらの解決に向けて構想する力、考察したことや構想したことを説明する力、議論する力を身に付けることで、深い学びを実現するための思考力を育成していく。

2 社会科における深い学び

深い学びとは、「課題の発見・解決に向けた主体的・対話的な深い学び(アクティブ・ラーニング)」の視点で授業実践を行ない、生徒が課題に対して「もっと調べたい」「なぜこうなっているのか？」など意欲や疑問を持ち続けて授業に取り組む中で、社会的な見方・考え方をを使って、自分の考えを持ち、他者との対話や自分の考えたことを振り返ることを通して、人・事・モノから学んだことを、説得力のある形で再構成することで、課題に対してよりよい解決策を探し続けること(深く考える)ことが、深い学びにつながると考える。

3 深く考えるための手立て

研究の3本の柱として次のように手立てを行い実践していく。

(1) 深く考えるための学習方法

単元の学習を主体的にし、単元で学んでほしい社会的な見方・考え方を大きくつかんで単元の学習に入れるようにするために、単元の導入で知識構成型ジグソー法を取り入れた。そうすることで単元の学習を主体的・対話的に取り組みながら、社会的な見方・考え方を深め合うことにつながると考える。

(2) 深く考えるための学習過程

単元の中核となる発問を工夫し、そこから生徒同士の対話や意見交換、自分の考えを振り返る活動を通して生徒が知識の再構築を行い、課題に対する自分なりの解決策を作り出せるような能動的な学びを考える。また、より多面的、多角的な視点で課題について考え続けていけるように、毎時間の学習課題や発問を工夫したい。

(3) 深く考えた過程や結果をみとる学習評価

1時間での考えの変容をみとる方法として、課題について予想させ、学習後の考えと比較する。単元を通して生徒が考えたことや疑問に思ったことを記述させ、自分で振り返ったり、評価できるようにワークシートを工夫する。

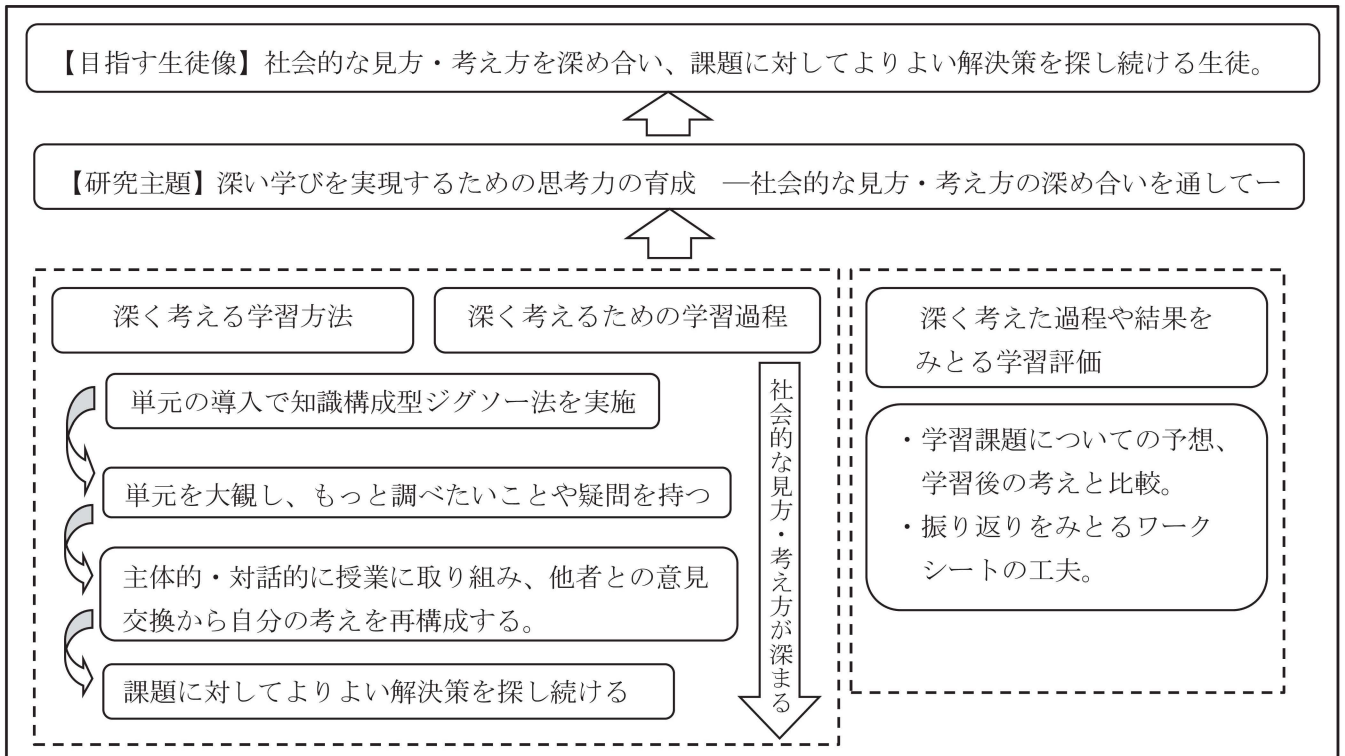


図1 研究構想図

2 1 学年実践事例【地理的分野】

世界の諸地域「南アメリカ州」

(1) 主題

「ブラジルにおける熱帯林の開発を進めるべきか」
～開発と環境保全～

(2) 目標

開発が進んでいる南アメリカの地域的特色をふまえ、「開発」と「環境保全」のあり方について、多面的・多角的に考え、自分の意見を常に補完・修正しながら、解決策を考えることができる。

(3) 本実践の目的

本単元は、学習指導要領地理的分野の内容（1）ウ（オ）「南アメリカ州」にあたり、人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて南アメリカ州の地域的特色を理解していく学習である。本実践では、主題を「開発と環境保全」とし、「ブラジルにおける熱帯林の開発を進めるべきか」という単元の中核となる問いを立て追究する、課題解決の学習をおこなっていく。課題解決のための追究の過程で、調べたことをグループ内で共有したり、今の時点での課題に対する考えを話し合うなど、グループ内や学級内での対話の場を意図的に設定することで、位置や空間的な広がりとの関わりや他地域との結びつき、人間の営みと

の関連など、課題に対する多面的・多角的な視点を獲得し、地理的な見方・考え方をお互いに深め合うことをめざした。

(4) 実践内容

本実践の目標を達成するために次の2つの点において単元構成を工夫し、指導を計画した（図2）。

1つは単元の学習を主体的にし、単元で学んでほしい社会的な見方・考え方を大きくつかむための単元の導入（第1時）の工夫であり、もう1つは深く考えるための単元の中核となる問いの設定と課題解決学習におけるグループや学級内での対話の場面の設定である。

【単元導入の工夫/知識構成型ジグソー法の活用】

単元の導入（第1時）に「ブラジルのバイオ燃料の取り組みの是非」を問う、知識構成型ジグソー法による協調学習を取り入れた。ブラジルではさとうきびを原料にするバイオ燃料が普及し、二酸化炭素の抑制のみならずブラジルの産業界にも雇用の面などで良い影響を与えている一方、さとうきび生産の増加があらたな環境問題を引き起こしているという矛盾から、単元の主題である「開発と環境保全」についての生徒の「ゆさぶり」をうみだし、単元の学習全体が主体的な学習になるようにした。第1時の授業後には、「開発と環境保全」の視点から南アメリカ州について調べてみたいことや疑問点を持てるよう意図して授業を計画した（表1）。

主題「ブラジルにおける熱帯林の開発を進めるべきか ～開発と環境保全～」 5時間配当 本時第1時

	学習内容	思考を誘う発問	習得する知識	学習形態
導入	第1時 本時 南アメリカ州を追究する学習課題をつかむ [ジグソー法]	○「ブラジルのバイオ燃料はこれからどうなっていくべきか。」 ○調べてみたいこと、疑問に思ったことを挙げよう。	バイオ燃料の取り組み 熱帯林開発の現状	ジグソー学習
追究	第2～3時 南アメリカ州を大観する	○「南アメリカってどんな地域だろう？」	自然環境、民族構成、産業	一斉授業
	第4時 学習課題追究の計画をたてる 課題を追究する① 情報収集→グループ内で情報共有、分析	課題「ブラジルにおける熱帯林の開発を進めるべきか。」 ○仮説の証明に必要なデータは？ ○視点の提供；①開発のメリット、デメリットは？②それぞれの立場から考えると？	熱帯林の開発の現状	個人で考える グループ/協調学習
	第5時 課題を追究する② 全体で意見交換	「ブラジルにおける熱帯林の開発を進めるべきか。」	熱帯林の開発の現状	グループの発表・全体で意見交換
発展	第6時 持続可能な開発について考える	南アメリカ州が発展していくためには、どうしたらよいか。	持続可能な開発の視点/取り組み	一斉授業 個人で考える

図2 「南アメリカ州」の単元計画

表1 単元の導入（第1時）の授業（知識構成型ジグソー法）の概要

メインの問い
「ブラジルのバイオ燃料の生産は、今後どうなっていくべきか？」(ブラジルのさとうきび生産量の推移とバイオエタノールの生産量の推移のグラフを提示し、ブラジルのバイオ燃料の取り組みの未来を考えさせる)
エキスパート資料の内容
エキスパートA（バイオ燃料の良さ）
<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素の排出量を抑える（図） ・地球温暖化に有効 ・枯渇しない（再生可能エネルギー）など
エキスパートB（ブラジルの産業とバイオ燃料）
<ul style="list-style-type: none"> ・バイオ燃料で動く自動車生産がさかん（グラフ） ・低価格のバイオ燃料（写真） ・バイオ燃料関連の産業の従事者が多い（表）など
エキスパートC（環境保護の視点）
<ul style="list-style-type: none"> ・さとうきび生産量増加と森林面積の減少（グラフ） ・熱帯林伐採のようす（写真や分布図） ・熱帯林の有用性（資料）など
ジグソー活動
3～4名の各グループで、それぞれがエキスパート活動でまとめたことをグループのメンバーに伝え合い、グループでメインの問いについて話し合う。
クロストーク
各グループの考えを全体で共有する。
本時の問い（まとめ）
「本時の授業から南アメリカ州について、調べてみたいことや疑問に思ったことを書き出してみよう。」

【単元の中核となる問い/対話の場面の設定】

単元の導入を受けて、「ブラジルにおける熱帯林の開発を進めるべきか」という単元の中核となる問いを立て、課題解決の学習をおこなった。仮説を追究していく過程では、ICT等を活用した調べ学習をおこなった。その際、現時点で個人で調べられたこと、調べることができなかつたことも含めた情報の共有、課題に対する自分の考えをグループ内で説明したり、意見交換し合うなど、グループ内での対話の場面を意図的に設定した。さらに問いに対して学級全体で意見交換する場面を設定した。対話を通して他者の意見に触れたり、新たな情報や新しい視点に触れることで課題に対する多面的・多角的な視点を獲得し、地理的な見方・考え方をお互いに深め合うことを意図した。また他者との対話の場面は、「何がわかって、何がわからないのか」「なぜ自分はそう考えているのか」など、自分の考えを意識的に振り返ることにつながり、そうすることで課題に対する自分の考えを常に補完・修正することをめざした。

(5) 実践の考察

①生徒の学習の評価

単元の学習における次の2つの場面を取り上げて生徒の学習の評価を考察したい。

【単元の導入（第1時）での場面】

単元の導入で「ブラジルのバイオ燃料の生産は今後どうなっていくべきか」を問う、知識構成型ジグソー法による協調学習をおこなった。3名の生徒を取りあげ、同じ生徒の授業前と授業後のメインの問いに対する解がどのように変化したかを記したのが表2である。

表2 問いに対する生徒個人の変容

生徒A	[授業前]（ブラジルのバイオ燃料の生産は）増えていく方がいいと思う。
	[授業後] バイオ燃料は、二酸化炭素の排出量を減らすことができるが、このままバイオ燃料を生産してしまうと熱帯林が破壊されたり、食糧不足になったりするの、その点では（ブラジルのバイオ燃料の生産は）減っていく方がいいと思う。
	[授業後のまとめ] さとうきびをつくることでメリットもあるが、デメリットもあるので、バイオ燃料を増やした方がいいか減らした方がいいのか、どうしていいかわからない。
生徒B	[授業前]（ブラジルのバイオ燃料の生産は）増えた方がいい。石油も減ってきているから。
	[授業後] バイオ燃料は二酸化炭素の発生を抑えるけど、それをつくるまでに必ず二酸化炭素が発生するし、そのために熱帯林の伐採などがあり地球環境を汚すので、バイオ燃料の生産は減らした方がよい。
	[授業後のまとめ] バイオ燃料をつくることで（森林伐採で）増えてしまう二酸化炭素の排出量とバイオ燃料で二酸化炭素が抑えられる量はどっちが多いか知りたい。そうするとバイオ燃料を増やした方がいいかどうかわかる。
生徒C	[授業前]（ブラジルのバイオ燃料の生産は）増えていった方がいい。ガソリンの代わりに使えるから。
	[授業後] バイオ燃料はガソリンよりも安いし、いくらでもつくることができるし、二酸化炭素を排出しないため、地球環境に優しい。しかし、さとうきび畑などを広げるには森林を伐採する必要があり、二酸化炭素の吸収や貴重な動植物が減ったり、先住民の生活を破壊してしまう。そのため、少しずつバイオ燃料の生産を減らすか、今の状態を維持する必要がある。

[授業後のまとめ] バイオ燃料は安いし、多くの人がその生産に関わっているためこれから増やしたいが、森林を伐採せずにバイオ燃料をつくれる方法はないか知りたい。

ブラジルにおけるバイオ燃料の生産のメリット（「二酸化炭素の発生を抑える」「ブラジルの産業との関連」など）とデメリット（さとうきび生産の増加による熱帯林の減少などの新たな環境問題の発生）については、ほとんどの生徒が理解できていた。だからこそ「ブラジルのバイオ燃料の生産は今後どうなっていくべきか」について「どうしていいかわからない」「もっと知りたい」という生徒が多く、それをどのように解決したらいいのかについて自分なりに悩み、考えていたようすがあった。生徒Aは、ブラジルでのバイオ燃料のメリットとデメリットに気づき、その両面から考えることができた。授業後のまとめの記述からは、「どうしていいかわからない」と今の時点での考えを素直に表現している。生徒Bは、バイオ燃料のメリットとデメリットをふまえて、メインの問いの解を考えるのに必要な情報は何かということまで考えている。生徒Cは、バイオ燃料の是非について考える根拠に、地球環境面だけでなく、人々の生活の視点（ガソリンより安い/先住民の生活を破壊/多くの人が生産に関わっている）など、多面的・多角的な視点で問いについて考えていた。

[学級で意見交換後、自分の考えをまとめる場面]
「ブラジルにおける熱帯林の開発を進めるべきか」という単元の中核となる問いについて、グループ内での情報共有や対話を通して自分の考えをまとめていく課題解決の学習をおこなった。第5時には、追究してきた自分の考えを持ち寄り、学級全体で意見交換をおこない、あらためて「開発と環境保全」について自分の考えをまとめる場面を設定した。その中から2名の生徒の記述を抽出した（表3）。

表3「開発と環境保全についての考え」

生徒D	<p>ぼくは、開発と環境保全について、開発する方が経済が豊かになり、人々の暮らしが良くなるが、先進国が言う「環境保全は、自分たちが豊かになるために開発を行っていたことを考えていないと思う。だから先進国が環境を大切になどとは言わず、「みんなが暮らしやすいのはどちらか」をこの「開発と環境保全」の2つのバランスを使って考えた方がいいと思う。</p>
-----	--

生徒E	<p>開発をしたい気持ちもわかるし、環境保全をしたい気持ちもわかるけど、環境も大切にしないといけないから、「開発はするけど環境を壊さない程度でずっと使い続けることのできるような世の中」になってほしいです。世界中のみんながそういう考えを持つことが一番大事だと思います。でも先進国が二酸化炭素を出し過ぎているから、他の国が困っている…。</p>
-----	--

生徒Dは、開発と環境保全のあり方について、「経済的に豊かになる」「人々の暮らしが良くなる」など人間の営みとの関連や、「開発」のとらえを環境破壊が進んでいる地域のみならず、先進国など他地域との関わりの視点でとらえていることがわかる。生徒Eは、開発と環境保全のどちらの視点にも理解を示しつつ、「開発はするけど環境を壊さない程度で」と持続可能な開発の視点を獲得し、意見をまとめている。生徒Dや生徒Eのように、課題に対する多面的・多角的な視点から自分の意見をまとめ、地理的な見方・考え方に触れる記述が多数見られた一方で、自分の考えの正当性を示す根拠のみを羅列し説明する生徒もみられた。

②授業デザインの振り返り

[単元の導入]については、生徒Bも生徒Cも授業後のまとめで「開発と保全」の視点を大きくつかみながら、これからの学習で「知りたい」ことをしっかり挙げていることは成果として挙げられる。一方で、その「知りたい」や疑問点が次時の学びへどのようなつながっていったのか、あるいはつながらなかったのかを、その後の生徒の具体的な発言や記述からは見取ることができなかった。

[単元の中核となる問い/対話の場面の設定]については、単元学習後の「開発と環境保全」についての生徒の意見からは、課題に対する多面的・多角的な視点から自分の意見をまとめている生徒が多く、地理的な見方・考え方に触れる記述を多数確認することができた。しかし、自分が考えたことを他者に対してより説得力のある形で説明するには十分でない生徒もみられた。また、生徒個々の思考の深まりが、具体的にどの場面で、どのような対話から、どのように変化したのかをみとることができなかった。生徒のアウトプットをどのような場面で、どのようにみとるか。この視点での評価計画が大きな課題として残った。

V 授業実践

1 3学年実践事例【公民的分野】

私たちの生活と社会 1 消費生活と経済のしくみ

(1) 主題

経済について考えよう。

「価格はどうのように決めているのか？」

(2) 目標

価格の決めり方を需要と供給、生産者と消費者の視点から考えることを通して、経済活動について多面的・多角的な疑問を持つ。

(3) 本実践の目的

本単元は学習指導要領公民的分野、内容(2)私たちと経済、ア、市場の動きと経済に位置づけられ、身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解していくことを目的としている。身近な事例（消費活動）を題材に知識構成型ジグソー法を単元の最初に設定して単元を大観し、消費者や生産者の視点から経済活動について多面的・多角的に捉え、世の中の出来事と関連づけて考えることでこれからの学習意欲を高めると考える。

また、学習課題について考えたことを振り返り、「もっと調べたいこと」や「疑問に思ったこと」を

学習の流れ (5時間配当 本時第1時)

		学習内容	思考を誘う発問	習得する知識	授業形態
導入	本時	価格のきまり方	○経済について考えよう。 「価格はどうのように決めているのか？」 ○調べてみたいこと、疑問に思ったことを書いてみよう	価格の決めり方	ジグソー学習
追究	2	消費者の権利と自立	○消費者の視点で考えよう。「あなたが商品を選択するときが一番重要と思うことは何？」 ○消費者の権利について考えよう	商品の選択 消費者の権利	一斉授業 グループ学習
	3	企業の役割	○生産者の視点で考えよう。「企業の目的は何だろうか考えよう」 ○「商品を売ること」と「企業の責任」	企業の目的 企業の社会貢献と社会的責任	一斉学習 グループ学習
	4	政府の役割	○政府の役割について考えよう。「価格が変動しにくいのはどのようなものか？」 ○「公共料金」	公共料金	一斉学習 グループ学習
発展	5	市場のしくみ	○消費者・生産者の視点から考えよう 「消費者にとって価格は安い方がいいのか？」	物価 インフレ デフレ	一斉授業 個人で考える

図3 単元計画

書き出し、他者と考えたことを意見交換、対話することで自分の意見を再構成することが深く考えることにつながると考えた。

(4) 実践内容

本実践の目的を達成するために、次の2つの点において単元構成を工夫し、指導を計画した(図3)。1つは単元の学習が主体的なるための工夫。もう1つは単元を通して、より多面的、多角的な視点で課題についてよりよい解決策を探し続けていくような発問の工夫である。

① 単元の学習が主体的になるための導入の工夫

単元の導入に知識構成型ジグソー法による協同学習を取り入れ、学習課題を「価格はどうのように決めているのか？」と設定し、3つのエキスパート資料から考えた。

エキスパートA「商品の価格が変動するのはなぜ？」

- ・商品を買いたい人と売りたい人と価格の関係について考える。

エキスパートB「同じ商品なのに価格が違うのはなぜ？」

- ・人件費・利益・流通など商品を作るには様々な費用がかかることを考える。

エキスパートC「価格の内訳を予想しよう。」

- ・海外と国内で生産されている商品の内訳を予想してその理由を考える。

ジグソー活動

ジグソー班 (3~4名) に移動する。エキスパート活動「価格の変動」「商品コスト」「価格の内訳」について話し合ったことを伝え合い、メインの問いについて考える。

クロストーク

各グループの考えを全体で共有する。その後、個人の考えをまとめる。

本時の問い

今日の学習を通して、調べたいことや疑問に思ったこと、考えたことを書き出し、グループで共有しその答えについて意見交換する。

② 実践の考察

(ア) 生徒の学習評価

生徒の授業前とジグソー活動後の変容について次の表にまとめた(表 4)。生徒は各エキスパート資料から分かったことをまとめグループに伝えことができるようにした。ジグソー活動では学習課題についてわかった事を伝え、本時の問いについて考えて話し合う様子が見られた。

表 4 学習課題に対する生徒の変容

生徒 A	授業前	商品の質や量、大きさに合った値段を決めている。 ⇒ 生産者の視点、商品の価値で価格が決まると考えている。
	ジグソー活動後	○商品が作られた時期で、あまり作られなくて、消費者がその商品を欲しがっている場合や消費者が多く買ってくれる時に価格が上がると思いました。 ⇒ 商品の価値と消費者の視点、季節によって価格が決まると考えている。
生徒 B	授業前	○素材など商品に関わっている会社が集まって決めている。 ⇒ 生産者の視点、原材料が関係して会社が価格を決めていると考えている。

生徒 B	ジグソー活動後	○人件費は海外よりも日本が高いから、どこで作られたかでも、価格は決まると思う。 ○売られている量が少なければ、それを求める人たちが増えるため、利益を得るために価格が高くなる。 ⇒ 人件費や生産地の関係、商品の数量によって価格が決まると考えている。
生徒 C	授業前	○お店とその製品を作っている会社で話し合いをして価格を決めている。 ⇒ 生産者の視点、複数の会社関係していると考えている。
	ジグソー活動後	○価格は、その時期や年にどれくらいの生産量があり、どれくらいの消費者(その商品を買いたい人)がいるのかということや、人件費や輸送費などが関係して、それぞれに見合った価格で決められていると思う。 ⇒ 商品の数量と消費者の数によって価格が決まり、それにコストが関係して見合った価格になると考えている。

本時の学習課題について、クロストーク終了後、本時の学習を振り返り「もっと調べたいこと」や「疑問に思ったこと」について考えた(表 5)。

表 5 調べたいことや疑問に思ったこと

<p>○私たちは普段、売られている物を買う立場で、その商品の値段の中に、どんな内訳があるのか考えたことがなかった。「経済」にはいろんな人や物が関わっているから、よく考えて学んでいきたい。</p> <p>○値段が高いほど、その商品に占める利益は本当に大きいのか?</p> <p>○物価が安いとはどういうことなのか?</p> <p>○セールはお店の利益を減らすことなのか? 人件費にも関わってくるのか?</p>

(生徒ワークシートより原文ママ)

「もっと調べたいこと」や「疑問に思ったこと」を書き出し、これからの学習内容や実生活に関連している疑問を持つ生徒が見られた。これらの疑問を持ちながら学習を進めることで、経済について多面的、多角的に捉え、よりよい解決策を考えることができるようにしていく。

(イ) 授業デザインの振り返り

学習課題について具体的なイメージを持った生徒が少なく、コストや生産者の視点で決まると考える生徒が多かった。経済分野の最初の授業なので仕方が無いと思われる。エキスパート資料から関連づけて考える様子が見られ、生産者や消費者の視点やコスト、流通など様々な要因が関係している事に気付くことができた生徒が多く見られた。

(ウ) 実践を踏まえた授業の改善点

エキスパート資料から考える事はある程度できていたと思う。しかし、Cの資料（生産地について）はどのような関連があるのか、補助質問に戸惑う生徒が多かった。クロストークでは各班の意見から、自分の考えをまとめる生徒の様子が見られた。

課題の設定については学習の様子から適当だったと考える。しかしエキスパート資料の内容については、もっとシンプルにしてもいいと思う。ワークシートの内容から、これから経済分野の学習を始めるにあたって、様々な疑問を持つことで学習意欲の向上や学習内容の定着が期待できると思われる。

③ よりよい解決策を探し続けていくような発問の工夫

単元の最後に「消費者にとって価格は安い方がいいのか？」という学習課題を設定し、単元で学習したことを振り返りながら自分の考えたことをまとめさせた。

○価格が下がるということは、ほしい人も少ないということなので、商品が売れ残ってしまう。そうすると、それを売っている企業のもうけが少なくなり倒産するかもしれない。そしたら、そこに勤めていた人が失業したり、家計の収入が減ったりするので安い方がいいとは言えない。

○価格の安い理由が、物価の下落だとすれば、物が売れなかったり、売れても企業の利益が上がらなったりして企業の倒産が増え、家計の収入が減り、さらに物が売れず、不況が続く可能性もある。

るので、いいことばかりでもない。でも、価格が安い理由が、企業が互いに競争しているということなら家計にとってもいいことだとおもう。

(生徒ワークシートより原文ママ)

消費者の視点だけで考えず、企業、労働者の視点からも考えて、自分なりの答えを考えている様子が見られた。授業を通して均衡価格を考える生徒が多かったが、疑問に思ったことにあった「セールの価格」や「売れ残り商品」など、身近な事に関連づけて考え、よりよい解決策を考えることが、経済活動全体につながることを踏まえて発問の工夫を実践していく。

VI 成果と課題

1 成果

- ・学習課題について多面的、多角的に考察し、よりよい解決策を考えていた。
- ・課題に対して複数の立場や意見を踏まえて考える姿が見られた。
- ・単元の導入に知識構成型ジグソー法を取り入れるなどの工夫で、社会的な見方・考え方を使って深く考える様子が見られた。

2 課題

- ・課題について自分の考えをまとめることができたが、それを他者に説明することや自分の考えを再構成することが十分でない。
- ・課題に対してよりよい解決策を探しているが、他者の意見を吟味することや、自分の考えを掘り下げて考え続けることが十分でない場面が見られた。
- ・生徒の考えている過程をどのようにみとめるのか、評価方法を考えていく。

引用・参考文献

- (1) 国立教育政策研究所「資質・能力 理論編」東洋館出版社、2016年、p12
- (2) 琉球大学教育学部附属中学校「研究紀要」第28集 2015年
- (3) 「社会的な見方や考え方や思考力、判断力、表現力等」イメージ 平成28年4月27日 教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ資料7